

コロナ禍の倉敷観光に関する一考察： 2022年度長崎県立大学学長裁量教育研究成果報告書^{※)}

竹 田 英 司
笠 原 早 詠^{※※)}
三 宅 舞^{※※)}

概要

なぜコロナ禍でも倉敷美観地区に観光者が訪れるのか。本研究の目的は、コロナ禍（主に2022年）における倉敷美観地区観光者の特性を検証することであった。2022年現在、倉敷美観地区では、COVID-19拡大前（2019年）から日本人観光者の宿泊率が上昇した。COVID-19収束後（2023年以降）、倉敷美観地区でも外国人観光者が増え、日本人宿泊者が減っていく（日本人日帰り者が増えていく）であろう。そうなれば、コロナ禍（2022年現在）でも堅調な1人あたり消費額15,313円は減額する可能性もある。

COVID-19収束後（2023年以降）、倉敷美観地区が観光で稼ぐためには、観光者数の回復や増数を目指すのではなくリピーターを増やし、同地区での飲食増や宿泊増によって1人あたり観光消費額を増額していかなければならないと結論づける。

キーワード：コロナ禍（2022年）／1人あたり観光消費額／産業ツーリズム／波佐見

目 次

1. 岡山県倉敷市の概況
 - 1.1. 倉敷市の人口と高齢化率
 - 1.2. 倉敷市の産業構造
 - 1.3. 研究の目的
 - 1.4. 研究の対象
2. 先行研究の整理
 - 2.1. COVID-19拡大前（2019年以前）の倉敷美観地区観光に関する先行研究
 - 2.2. 倉敷美観地区の文化ツーリズムに関する先行研究
3. 学術的問いと検証方法
4. 検証結果
 - 4.1. COVID-19拡大期（2020年～2022年）における倉敷美観地区の観光者数や

※ 本研究は、2022年度長崎県立大学学長裁量教育研究費による成果の一部である。

※※ 2023年度長崎県立大学地域創造学部4年生。

観光消費額は、どれくらい減少していたのか

- 4.2. COVID-19拡大期（主に2022年）における倉敷美観地区の観光者にはどのような特性があるのか
- 5. 考察：どのように倉敷美観地区の1人あたり観光消費額を増やしていくか
 - 5.1. 食べ歩き促進
 - 5.2. まち歩きクーポンの改良
- 6. 結論
- 参考文献

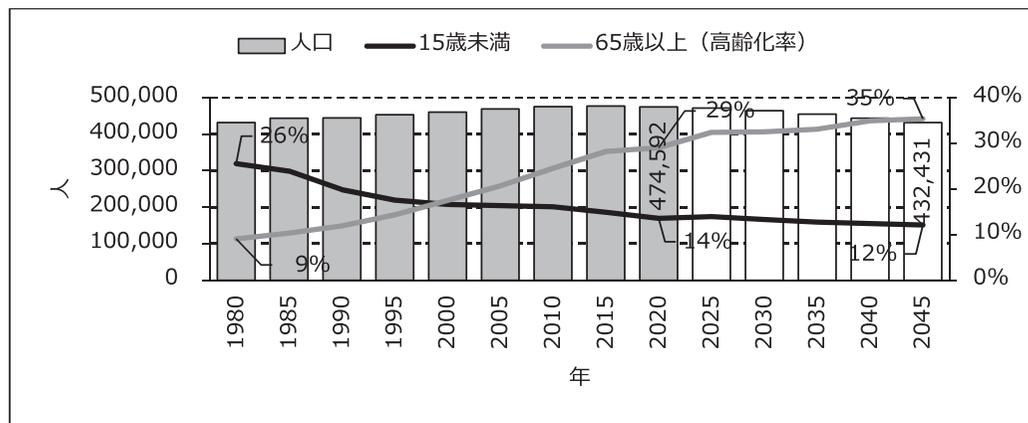
1. 岡山県倉敷市の概況

1.1. 倉敷市の人口と高齢化率

倉敷市（2024年1月1日人口468,861人）は、岡山県の南部に位置している（人口は岡山県総合政策局統計分析課2024・2頁より）。倉敷市に隣接しているのは、岡山市（人口715,266人）や矢掛町（人口12,704人）などの岡山県6市町村と、坂出市と丸亀市の香川県2市である。倉敷市は、1967年2月、旧倉敷市・児島市・玉島市が合併して誕生した。さらに倉敷市は、2005年8月、船穂町と真備町を編入合併している（平成の大合併）。このような経緯から、倉敷市は、倉敷市くらしき移住定住推進室（2023）によれば、5地区（①倉敷地区・②水島地区・③児島地区・④玉島地区・⑤船穂・真備地区）に分類できる。

5年に1度の国勢調査によれば、倉敷市の人口は、図1左目盛りに示されたとお

図1 倉敷市の人口（左）と高齢化率（右）



注：2025年以降の人口は、内閣府まち・ひと・しごと創生本部による推計である。
出所：内閣府まち・ひと・しごと創生本部事務局（2015）からデータ収集し作成。

り、1980年432,171人から2015年477,118人まで微増傾向にあったが、2015年から2020年現在474,592人まで減少傾向にある¹⁾。倉敷市の人口は、2020年以降も減り続けて、2045年には432,431人になると予測されている。

65歳以上が人口に占める高齢化率は、図1右目盛りに示されたとおり、1980年13%から上昇し続け、1995年には14%に達している。倉敷市は1995年から高齢化率14%以上の高齢社会にあった。1995年以降も、倉敷市の高齢化率は上昇し続けていて、2010年に21%を超えているので、倉敷市は2010年から高齢化率21%以上の超高齢社会に変わっている。2020年現在、倉敷市の高齢化率は29%であり、2045年には35%まで達すると予測されている。他方、15歳未満が人口に占める比率は、図1右目盛りに示されたとおり、1980年26%から下降し続け2020年現在14%、2045年には12%まで落ち込むと予想されている。

2000年に65歳以上の比率と15歳未満の比率が逆転している。倉敷市は2000年から少子高齢化社会にある。

1.2. 倉敷市の産業構造

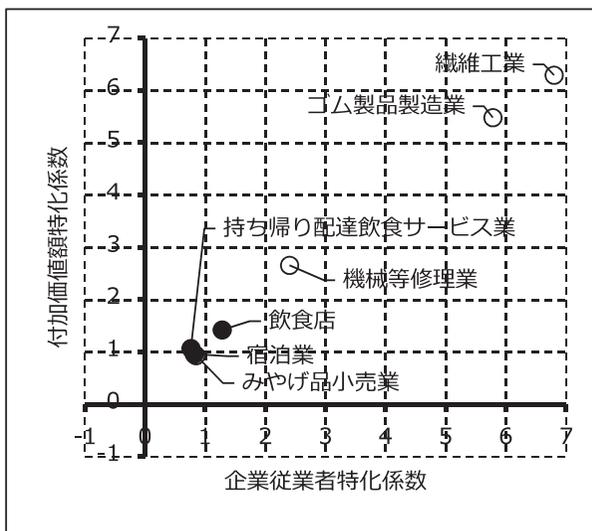
農林漁業・地場産業・観光業など、地域における特化産業のなかで、地域の「外」の消費者や、地域の「外」を市場としている特化産業が、地域の稼ぐ力（地域の移出演業）である。倉敷市の企業従業者特化係数をx軸、付加価値額特化係数をy軸にとり、第1象限に位置するなかでも、xとyの正の値が最も大きい産業（最も右上に位置する産業）が地域最大の特化産業である。

倉敷市における地域最大の特化産業は、2016年現在、図2に示されたとおり、繊維工業（6.8, 6.3）である。倉敷市において、観光に関連する「宿泊・飲食サービス業」は、特化産業の上位3種に入っていないものの、飲食店（1.3, 1.4）、持ち帰り配達飲食サービス業（0.8, 1.1）、宿泊業（0.8, 1.0）が第1象限、みやげ品小売業（0.9, 0.9）も第1象限にある（みやげ品小売業は「宿泊・飲食サービス業」に含まれない）。2016年現在、倉敷市の観光関連業では、企業従業者特化係数と付加価値額特化係数が1を超えている飲食店（1.3, 1.4）が、倉敷市の小さな稼ぐ力（地域の移出演業）の1つである。

倉敷市の観光に関連する「宿泊・飲食サービス業」の経済活動は、図3に示されたとおり、2016年度438億円から2020年度463億円まで微増傾向にあり、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）拡大前の2019年度421億円が過去5年間で最も低い。

1) 平成の大合併（2005年）以前は、倉敷市（平成の大合併前）・船穂町・真備町の合計である。本研究では、平成の大合併（2005年）以前も、便宜上、倉敷市と表記している。

図2 倉敷市の特化産業上位3種と観光関連業（2016年）

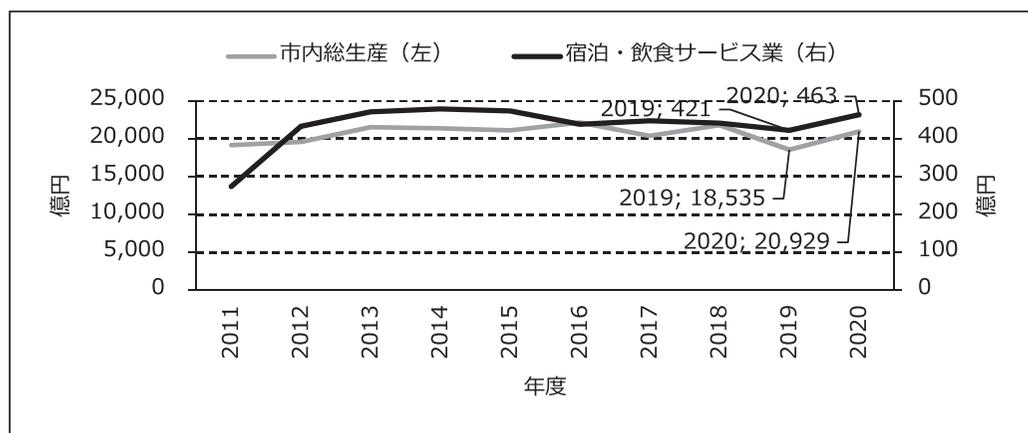


注：企業従業者特化係数が高い、各種商品卸売業（6.2, *）は、付加価値額特化係数が秘匿のため、図1に図示できなかった。

出所：内閣府まち・ひと・しごと創生本部事務局（2015）からデータ収集し作成。

その一方、倉敷市内総生産額は、2016年度2兆2,138億円からコロナ禍（2020年度）2兆0,929億円まで微減傾向にあり、COVID-19拡大前の2019年度1兆8,535億円が過去5年間で最も低い²⁾。

図3 倉敷市の市内総生産額



出所：岡山県総合政策局統計分析課（2023）からデータ収集し作成。

2) 「市町村内総生産とは、一定期間（通常1年間）に市町村内の生産活動によって、新たに生み出された価値（付加価値）の総額である。これは、産出額から中間投入額を差し引いたものである」（大分県統計調査

倉敷市「宿泊・飲食サービス業」は、COVID-19拡大前の2019年度が過去5年で最も低く、コロナ禍(2020年現在)にもかかわらず回復傾向にある(2019年比110%)。

1.3. 研究の目的

なぜコロナ禍(COVID-19 pandemic; 2020年~2022年)でも倉敷美観地区に観光者が訪れるのか。本研究の目的は、コロナ禍(主に2022年)における倉敷美観地区観光者の特性を検証することである。コロナ禍における観光者の特性がつかめれば、倉敷美観地区観光の将来を考える一助になろう。

1.4. 研究の対象

倉敷美観地区(岡山県倉敷市本町)とは、倉敷市美観地区景観条例にもとづく①伝統的建造物群保存地区150,000㎡(倉敷川周辺)と、②伝統美観保存地区60,000㎡を合わせた210,000㎡をいう。このうち、①伝統的建造物群保存地区(倉敷川周辺)は、国の倉敷川畔伝統的建造物群保存地区にも選定されている。倉敷観光や倉敷美観地区の先行研究では、①伝統的建造物群保存地区150,000㎡(倉敷川周辺)を主に研究対象にしている。

本研究では、上述の倉敷美観地区を研究の対象とする。

2. 先行研究の整理

2.1. COVID-19拡大前(2019年以前)の倉敷美観地区観光に関する先行研究

倉敷美観地区は、「交通機関の整備によって観光客数は大きく増加し、1988年には年間500万人を超えピークを迎えた」(吉田ほか2016・2443頁)³⁾。しかし、「(倉敷)美観地区の観光客数は1980年代の500万人超を頂点として以降減少傾向にはあるものの、2000年以降も年間約300万人前後を保っている」(森嶋2014・74頁・弧内引用者加筆)。

「(倉敷)美観地区周辺などでは、かつては多くの観光客がたたくのみやげ物を購入して帰っていたが、近年(2003年ごろ)はそうした観光客が減りつつあり、地域全体での消費金額も減少している」(倉敷市観光振興アクションプラン策定部会2004・5頁・括弧内引用者加筆)。

課2023・1頁)

3)「岡山県内では、山陽新幹線(1972年3月・新大阪-岡山間開業)、中国自動車道(1978年10月・県内全線開通)、瀬戸大橋(1988年4月開通)」によって、観光者は大幅に増加した(捧2001・74頁)。

倉敷美観地区の観光振興を考えた場合、「倉敷というブランドイメージで来訪する観光客は、消費行動にはつながらず日帰りで済ませてしまう現況を回避する施策を打ち出していくことが必要」である（猪池2013・27頁）。

2.2. 倉敷美観地区の文化ツーリズムに関する先行研究⁴⁾

倉敷美観地区の観光者は、「大原美術館の外観を目にしてその壮麗な雰囲気を感じたりする。そして、白壁の町並みを巡り、民芸品などを楽しむ」（片山2012・12頁）。倉敷美観地区の町並み巡りについて、「伝建事業の担当者である（倉敷市）教育委員会などは、『文化財としての町並み保存であって、極論を言えば観光客は必要ない』という考え方に対し、（倉敷市）観光振興課などは『美観地区を観光地としてより多くの観光客を』という考え方であり、同じ行政でも捉え方が異なる」（大山2005・92頁・括弧内引用者加筆）。

とはいえ、倉敷美観地区では、「高い誇りと気概を持ってこの町の歴史的・文化的原点を大切に、街の文化的底力を守り育ててきた。それだからこそ、この町は、一時的な観光ブームに襲われても劣化することなく、街の価値と誇りを持続することができている」（大原2011・257頁）。

倉敷美観地区の文化ツーリズムを考えた場合、「通過型の観光に終わらせるのではなく、その町に滞在させる工夫が求められる。この点で、食や伝統工芸、宿泊施設などの付加的な魅力の創出も不可欠となろう」（佐々木2008・185頁）⁵⁾。

3. 学術的問いと検証方法

- (1) COVID-19拡大期（2020年～2022年）における倉敷美観地区の観光者数や観光消費額は、どれくらい減少していたのか
- (2) COVID-19拡大期（主に2022年）における倉敷美観地区の観光者にはどのような特性があるのか

先行研究を整理した上記の学術的問い(1)(2)について、次の①②の検証を行う。

① 2次データ（既存データ）から、倉敷市の観光者数・宿泊率・外国人観光者率を

4) 「文化ツーリズム (Culture Tourism) とは、日本独自の歴史に根ざした文化財、伝統的な祭り、伝統工芸、伝統芸能、伝統的な生活文化などの文化的な観光資源にふれ、これに関する知的欲求を満たすことを目的とした観光である」（安田2021・209頁）。

5) 町並み巡りや町並み観光と表記された2010年前後では、「文化ツーリズム」がまだ体系化されていなかった。日本で「文化ツーリズム (文化観光)」が浸透し始めたのは、国土交通省総合政策局観光政策課（2007）や国土交通省観光庁観光産業課（2010）である。

検証する（検証1）。②1次データ（アンケート調査の結果）から、COVID-19拡大期（主に2022年）における倉敷市美観地区観光者の行ったところ・行程・居住地・1人あたり観光消費額・リピート率・飲食率について検証する（検証2）⁶⁾。

そのうえで、どのように倉敷市美観地区の1人あたり観光消費額を増やしていくかについて検討する（考察）。

図4 アンケート票と調査項目

倉敷美観地区 観光調査（長崎県立大学地域産業研究室）					
Q1 あなたの自身についてお聞かせします。					
性別	男性・女性	年齢	①～10代 10代前半 10代後半	②20代 20代前半 20代後半	③30代 30代前半 30代後半
居住地	①岡山県	②広島県	③兵庫県	④大阪府	⑤その他（ ）
同行人数	本人だけ	人	何人か	何人か	何人か
Q2 本日は、どなたと来られましたか。					
1.ひとり	2.夫婦だけ	3.家族（夫婦だけ以外）・親族	4.友人	5.家族以外	6.仕事関係者（同僚・上司・取引先ほか）
Q3 今回の美観地区で1人あたりいくら使いましたか・いくら使う予定ですか。					
飲食費	アニメ商品購入費	おみやげ購入費	自宅からの交通費	宿泊費	
1人あたり 円	1人あたり 円	1人あたり 円	1人あたり 円	1人あたり 円	
Q4 美観地区で、今回、行かれたところ・行く予定のところ、全てを○で囲ってください。					
1.ランチ店	2.カフェ店	3.大規模店舗	4.アイビスクエア	5.アニメ商品販売店	6.川舟遊し
Q5 美観地区へ来られた目的について、あてはまるものを全て○で囲ってください。					
1.食・グルメ	2.購物や娯楽	3.イベント	4.人との交流	5.思い出	6.デパート商品の購入
9.ビジネス	10.その他（ ）	7.デパート商品の購入	8.デパートのすぐそばの購入		
Q6 今日を入れて何回美観地区に来られたことがありますか。1つだけ○で囲ってください。					
1.はじめて	2.2回	3.3～4回	4.5回以上	5.10回以上	6.訪問目的のため多次
Q7 美観地区の魅力について、あてはまるものを全て○で囲ってください。					
1.町並みや回廊	2.ランチ店・カフェ店	3.イベント	4.暑かや自然	5.新鮮な空	6.生活スタイル
10.やっぱり美観地区そのもの	7.歴史や文化	8.人	9.とくにない		
Q8 今回の美観地区に滞在した時間・滞在する予定時間を教えてください。（例：およそ2時間30分）					
およそ	時間	分			
Q9 倉敷を知らない私たち学生に、オススメのおみやげを教えてください。					
美観地区でオススメのおみやげといえば、					
Q10 美観地区までの主な交通手段について、1つだけ○で囲ってください。					
1.自家用車	2.レンタカー	3.タクシー	4.貸切/観光バス	5.JR	6.高速バス/路線バス
Q11 美観地区を知らない私たち学生に、オススメのランチ店/カフェ店を教えてください。					
美観地区でオススメのランチ店/カフェ店といえば、					
Q12 あなたにとって、美観地区にあればいいものを全て○で囲ってください。					
1.便利な公共交通	2.ランチ店	3.カフェ店	4.観光ツアー	5.周辺案内図	6.宿泊施設
Q13 美観地区・倉敷市以外で、今回、行かれたところ・行く予定のところ、全てを○で囲ってください。					
1.特になし	2.岡山県	3.福井県	4.長野県	5.津山市	6.広島市
7.神戸市	8.高松市	9.その他（ ）			
Q14 あなたが倉敷観光で行ってみたい体験イベント全てを○で囲ってください。					
1.川舟遊し	2.高級温泉と銭湯	3.フルーツ収穫	4.ジーンズ作り	5.工芸体験	6.工芸体験ワークショップ
Q15 今回の美観地区へは日帰りですか。それとも宿泊（市外）ですか。					
1.日帰り	2.宿泊（市外）	3.宿泊（市外）	4.道	5.日	
Q16 美観地区や岡山地区を知らない私たち学生に、オススメのデパートショップを教えてください。					
美観地区や岡山地区でオススメのデパートショップといえば、					
Q17 今回の美観地区観光について、あてはまるものを1つを○で囲ってください。					
1.満足しなかった	2.あまり満足しなかった	3.やや満足した	4.満足した		
Q18 美観地区へ来たきっかけについて、あてはまるものを全て○で囲ってください。					
1.以前に来たことがあるので知っていた	2.インスタグラム	3.webサイト	4.Facebook・ツイッター・YouTube	5.テレビ・ラジオ	6.雑誌・新聞・情報誌
7.クオラ	8.紹介	9.その他（ ）			
Q19 美観地区にまた来たいと思いますか。					
1.リピートしたい	2.リピートしたいとは思いません				
リピートしたい理由（ ）					
リピートしたいお店など（ ）					
ご協力いただき、ありがとうございました。					

出所：筆者ら作成。

6) 筆者らが実施したアンケート調査の概要は、以下のとおりである。

- ・調査対象（母集団）：2022年倉敷美観地区の観光者232万人
- ・調査時期：2022年7月29日～2022年10月2日
- ・調査方法：アンケートによる標本調査
- ・調査場所：倉敷館観光案内所付近と倉敷美観地区川舟乗場付近（いずれも倉敷美観地区）
- ・調査数：1,023組2,364人
- ・調査項目（図4）：1人あたり消費額（飲食費・みやげ購入費・入浴費・交通費・宿泊費）ほか

4. 検証結果

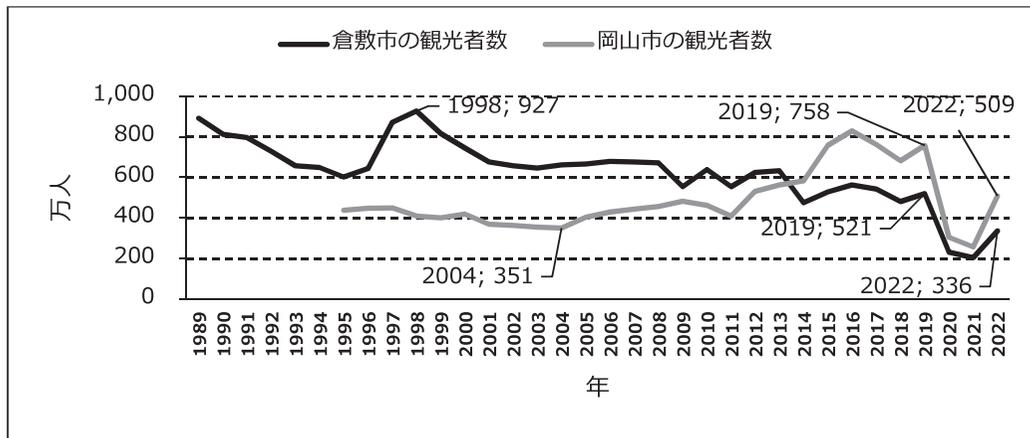
4.1. COVID-19拡大期（2020年～2022年）における倉敷美観地区の観光者数や観光消費額は、どれくらい減少していたのか

文化ツーリズムの対象から考えると、倉敷市（人口468,861人）には倉敷美観地区があり、岡山市（人口715,266万人）には岡山後楽園と岡山城があるので、本節では、倉敷市の状況について、岡山市との比較から検証する。COVID-19拡大前（2019年）の観光者数は、倉敷市が521万人（2019年人口比11倍）、岡山市が834万人（2019年人口比11倍）であった。

倉敷市の観光者数は、図5に示されたとおり、1998年442万人から2019年521万人まで減少していた。COVID-19拡大の影響を受けた倉敷市の観光者数は、2022年現在336万人（COVID-19拡大前の2019年比65%）まで回復している。他方、岡山市の観光者数は、2004年351万人から2019年521万人まで増加していた。2022年現在、岡山市の観光者数は、336万人（2019年比67%）まで回復している。

倉敷市の2022年地区別観光者数は、倉敷市文化産業局文化観光部観光課（2023）によれば、①倉敷地区（倉敷美観地区含む）242万人（2019年比69%）、②水島地区13万人（43%）、③児島地区75万人（57%）、④玉島地区5万人（66%）、⑤船穂・真備地区2万人（340%）である（括弧内は2019年比）⁷⁾。

図5 倉敷市と岡山市の観光者数



注：図中の観光者は、地元・県内・県外の日帰り観光者と宿泊延者数の合計。

出所：倉敷市文化産業局文化観光部観光課（2006；2023）と岡山市産業観光局観光部観光振興課（2010；2023）からデータ収集し作成。

7) 倉敷市くらしき移住定住推進室（2023）では、倉敷市を5地区に分類している。その一方、倉敷市文化

倉敷市の宿泊率は、表1に示されたとおり、COVID-19拡大前の2019年18%から2022年現在23%まで5ポイント上がっている。他方、岡山市の宿泊率は、COVID-19拡大前の2019年26%から2022年現在26%まで変わっていない。

倉敷市の外国人観光者率は、COVID-19拡大前の2019年5%から2022年現在1%まで4ポイント下がっている⁸⁾。

表1 倉敷市と岡山市の宿泊率・外国人観光者率・観光消費額

倉敷市			
	宿泊率	外国人観光者率	観光消費額
コロナ前（2019年）	18%	5%	非公表
コロナ禍（2022年）	23%	1%	非公表
岡山市			
	宿泊率	外国人観光者率	観光消費額
コロナ前（2019年）	26%	非公表	非公表
コロナ禍（2022年）	26%	非公表	非公表

出所：倉敷市文化産業局文化観光部観光課（2006；2023）と岡山市産業観光局観光部観光振興課（2010；2023）からデータ収集し作成。

倉敷市と岡山市の観光消費額は非公表である。よって、倉敷市と岡山県の1人あたり観光消費額も算出できない。そこで、岡山県の1人あたり観光消費額で代替する。岡山県の1人あたり消費額は、図6に示されたとおり、2011年5,281円から2019年11,577円まで増額傾向にあった。COVID-19拡大のなか、岡山県の1人あたり観光消費額は、2022年現在11,156円（COVID-19拡大前の2019年比96%）まで回復している。

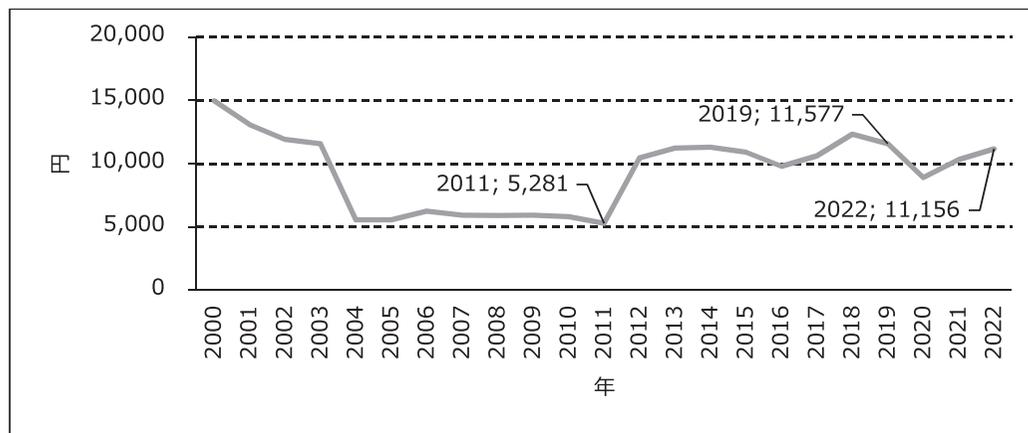
小括すると、倉敷市の場合、COVID-19拡大前（2019年）と比べると、2022年現在、①観光者数336万人は2019年比65%まで回復、②宿泊率は23%まで上昇（2019年18%）、③外国人観光者率は1%まで下降（2019年5%）していた。

倉敷市と岡山市も、2022年現在、たとえば長崎県波佐見町（2019年比93%・長崎県文化観光国際部観光振興課2023より）や大分県由布市（2019年比75%・由布市商工観光課2023より）ほど、観光者数は、COVID-19拡大前（2019年）から回復して

産業局文化観光部観光課（2023）では、倉敷市を6地区（上記の①～⑤と⑥庄・茶屋町地区）に分類している。本研究では、倉敷市くらしき移住定住推進室（2023）に合わせて、庄・茶屋町地域を倉敷地区にくわえた5地区で再集計した。

8) 倉敷市文化産業局文化観光部観光課（2020；2023）に、外国人観光者率は未掲載であったが、本研究では、外国人宿泊者数（同・12頁）と外国人バス利用者数（同・5頁）の計を外国人観光者数とした。

図6 岡山県の1人あたり観光消費額



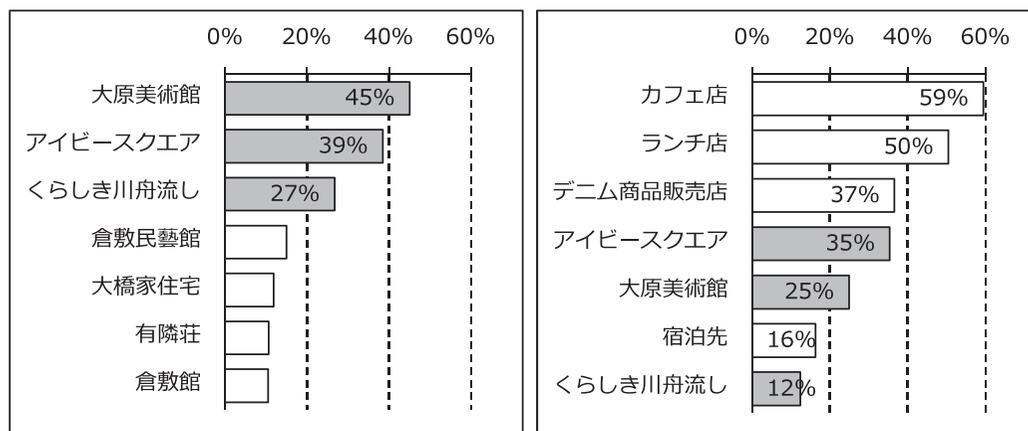
出所：岡山県産業労働部観光課（2001；2023）からデータ収集し作成。

いないことがわかった。

4.2. COVID-19拡大期（主に2022年）における倉敷美観地区の観光者にはどのような特性があるのか

以下、筆者ら実施による2022年アンケート調査の結果と猪池(2013)にもとづく。倉敷美観地区における観光者の行き先（複数回答）は、図7左図のとおり、2012年（n=597）が大原美術館45%、倉敷アイビースクエア39%、くらしき川舟流し27%

図7 倉敷美観地区で行ったところ/行く予定のところ（左；2012年・右；2022年）



注：図7右図（2022年）には、「行き先」未回答者39組が含まれていない。

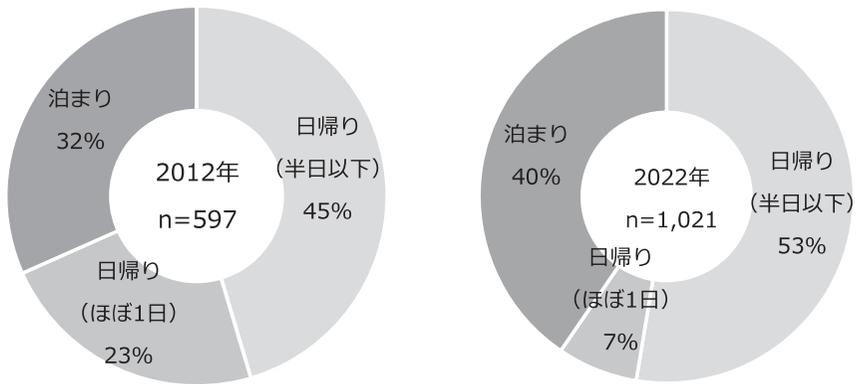
出所：筆者ら実施によるアンケート調査の結果と猪池（2013）から作成。

の順が多かった。しかし、2022年（n=984）では、図7右図のとおり、カフェ店59%、ランチ店50%、おみやげ店（デニム商品販売店）37%、倉敷アイビースクエア35%、大原美術館25%の順が多い。

2012年から2022年にかけて、倉敷美観地区における観光者の行程が、大原美術館や倉敷アイビースクエアなどの文化ツーリズムから、カフェ店やランチ店などの食べ歩き（フードツーリズム）に変わっていた。

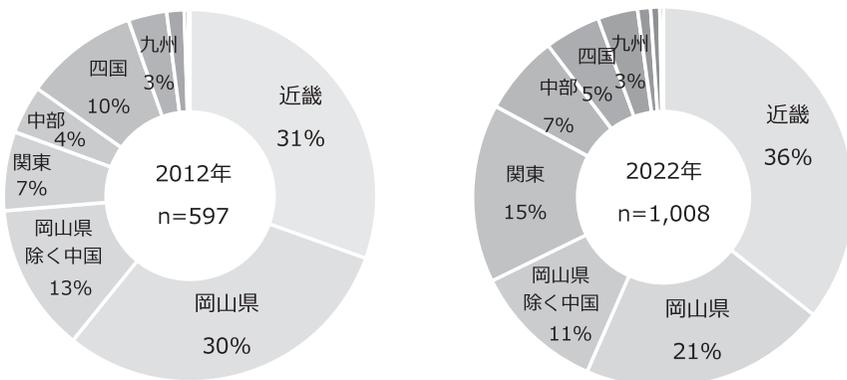
倉敷美観地区における宿泊者は、図8のとおり、2012年32%から2022年40%まで8ポイント増えていた。他方、倉敷美観地区の日帰り者は、ほぼ1日が2012年23%から2022年7%まで16ポイント減、半日以下が2012年45%から2022年53%まで8ポ

図8 観光者の行程（倉敷美観地区・左；2012年・右；2022年）



注：図8右図（2022年）には、「行程」未回答者2組が含まれていない。
出所：猪池（2013）グラフ9および竹田（2024）図8。

図9 観光者の居住地（倉敷美観地区・左；2012年・右；2022年）



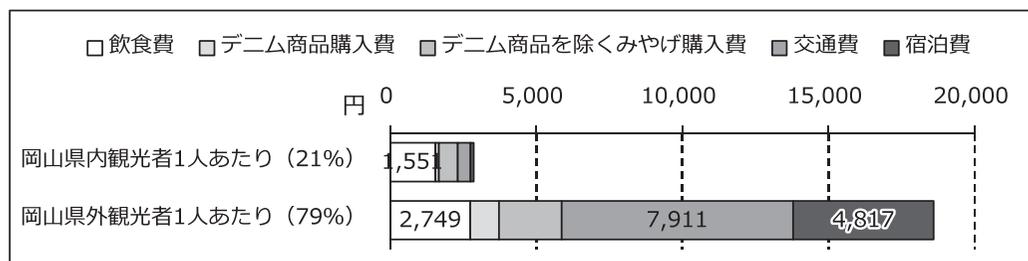
注：図9右図（2022年）には、「居住地」未回答者15組が含まれていない。
出所：筆者ら実施によるアンケート調査の結果と猪池（2013）図1から作成。

イント増であった。2022年現在、倉敷美観地区の観光者は、宿泊者が40%を占めているものの、日帰り者（ほぼ1日）が7%まで減少している。

倉敷美観地区における観光者の居住地は、図9のとおり、①近畿地方が2012年31%から2022年36%まで5ポイント増、②関東地方が2012年7%から2022年15%まで8ポイント増、③岡山県内が2012年30%から2022年21%まで9ポイント減などであった。岡山県外観光者は、2012年70%から2022年79%まで9ポイント増えている。

筆者ら実施のアンケート調査から、コロナ禍（2022年）における倉敷美観地区観光では、飲食率82%、デニム商品購入率12%、デニム商品を除くみやげ購入率57%、宿泊率33%である。倉敷美観地区の2022年1人あたり観光消費額は、15,313円であった（2022年岡山県比137%・前掲の図6参照⁹⁾。岡山県内観光者と岡山県外観光者にわけた場合、1人あたり観光消費額は、図10に示されたとおり、岡山県内観光者2,863円（うち飲食費1,551円）、岡山県外観光者18,605円（うち飲食費2,749円）であった。岡山県外観光者には、宿泊者が含まれているので、岡山県外観光者の飲食費2,854円は、やや物足りない。

図10 観光者の1人あたり観光消費額（倉敷美観地区・2022年・n=1,009）



注1：図10には「居住地」未回答者14組が含まれていない。

出所：筆者ら実施によるアンケート調査の結果より作成。

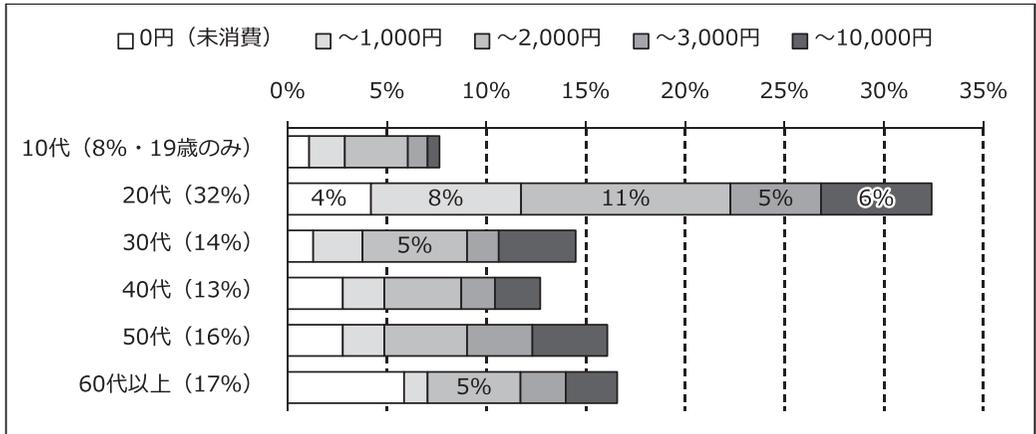
筆者ら実施による2022年アンケート調査の結果を小括すると、2022年倉敷美観地区における①観光者のリピート率は61%、②観光者の行き先（複数回答）はカフェ店59%やランチ店50%、③飲食率は82%であった。

2022年倉敷美観地区では、20代（20歳から29歳）34%が全年齢層のなかで最も多い。その20代の1人あたり飲食費は、図11に示されたとおり、全観光者のうち、「0円（未購入）」4%、「1円～1,000円」8%、「1,001円～2,000円」11%、「2,001円

9) 倉敷美観地区における2022年1人あたり観光消費額15,313円の内訳は、飲食費2,499円、デニム商品購入費802円、デニム商品を除くおみやげ購入費1,833円、交通費6,349円、宿泊費3,831円であった。

～3,000円」5%、「3,001円～10,000円」6%を占めている¹⁰⁾。また、どの年齢層でも1人あたり飲食費は、「1,001円～2,000円」の占める比率が高い。

図11 観光者の1人あたり飲食費（倉敷美観地区・2022年・n=1,007）



注1：図11には「年齢」未回答者4人が含まれていない。

注2：1人あたり飲食費が10,000円を超える12人を外れ値として除外した。

出所：竹田（2024）図10。

5. 考察：どのように倉敷美観地区の1人あたり観光消費額を増やしていくか

倉敷美観地区で、誰に・どのような観光を提供していくのか。倉敷美観地区観光者のうち、40%を占める20代以下（19歳から29歳）を対象に、1人あたり観光消費額の増額案を検討する。

5.1. 食べ歩き促進¹¹⁾

観光・飲食アプリ「SASSY」を活用した、倉敷美観地区内の食べ歩き促進案を検討する¹²⁾。たとえば、倉敷観光コンベンションビューローが中心となって、「SASSY」を倉敷美観地区の飲食店間で導入し、倉敷美観地区の有名店から隠れ

10) 図11の表データには、年齢層別の1人あたり飲食費に偏りがあった ($\chi^2(20) = 96.13$, $p < 0.000000000006$)。

11) 三宅（2024）14-17頁を竹田再構成。

12) 「SASSY (サッシー)」は、株式会社RelyonTrip (リリオントリップ) が企画・開発・運用するZ世代向け飲食・観光アプリである。「SASSY」では、「写真や動画などの視覚情報を直感的に選択し、『お気に入りスポット』や『行ってみたい旅先』のリスト化、SNSシェア、ルート検索などを一元的に行うことができる」(ジェイ・ライン2023・公式webページ)。

家店まで一元的に飲食店マップを作成する。アプリ内のデジタルマップで飲食店を表示し、食べ歩き促進を図る。「SASSY」を倉敷美観地区で導入し、「SASSY」を利用した19歳から29歳の半数で、1人あたり飲食費が700円増額すれば、1年間で観光消費額が3億2,520万円（推定）増額する¹³⁾。

倉敷美観地区における19歳から29歳の観光者1人あたり飲食費700円増額に向け、くらしき桃子（フルーツカフェ店・倉敷美観地区内に3店舗）のメニューについて、改善案を提案したい¹⁴⁾。筆者ら実施によるアンケート調査の結果によれば、くらしき桃子は、おすすめのカフェ店/ランチで第1位（複数回答・24%）、リピートしたい店で第1位（複数回答・20%）であった。

くらしき桃子では、パフェ・クレープ・ソフトクリーム・果実ジュースなどを提供している。とくに、くらしき桃子のパフェは、種類も多く、季節限定のフルーツが添えられている（図12）。くらしき桃子のパフェは、1つ2,000円前後が多い（2022年7月・三宅調べ）。

倉敷美観地区における19歳から29歳の観光者1人あたり飲食費700円増額に向け、くらしき桃子には、価格を少し抑えたミニパフェの提供を提案したい。たとえ

図12 くらしき桃子の桃パフェ



出所：2022年7月29日三宅撮影。

13) 2022年倉敷美観地区観光者数232万人×19歳から29歳の観光者割合40%（筆者ら実施によるアンケート調査の結果）の半数×飲食費増額分700円＝3億2,520万円。

14) くらしき桃子は、「倉敷美観地区にある町家をリノベートしたカフェである。季節のパフェや岡山県特産のフルーツを使ったおみやげなど多数取り揃えている。カウンター席は美観地区の町並みが見渡せる絶景スポットである」（くらしき桃子・公式webページ）。

ば、くらしき桃子のパフェを倉敷美観地区で食べ歩きできるよう、アイスクリームカップに入れたミニパフェ（価格700円を想定）の提供をお願いする。価格と量を抑えたメニューを提供することで、19歳から29歳の観光者を中心に、ミニパフェ購入にもとづく1人あたり飲食費の増額を促したい。

5.2. まち歩きクーポンの改良¹⁵⁾

「倉敷美観地区まち歩きクーポン」(企画・発行は三重交通株式会社、傍点引用者加筆)を改良した、倉敷美観地区内の消費促進案を検討する。倉敷美観地区では、2023年現在、「倉敷美観地区まち歩きクーポン」を配布している(図13参照)。同クーポンは、食べ歩きや体験などで使え、1冊(10枚綴り)1,000円で販売している。観光者の居住地は、限定されていない。

本節では、岡山県外者を対象とした行程別のクーポンを提案する。岡山県外日帰り者には、倉敷美観地区でランチタイムが終わってから使える飲食クーポン「倉敷

図13 倉敷美観地区まち歩きクーポンの案内



出所：三重交通株式会社（2023）。

15) 笠原（2024）20-23頁を竹田再構成。

美観地区「食べ飲み歩きクーポン」を発行し、長時間の滞在と観光消費額の増額を図る。倉敷美観地区では、夜の観光者が少ない。なぜなら、倉敷美観地区の飲食店は、夕方に閉店する店が多いからであり、いまのままでは、夜の飲食による観光消費額の増額は見込めない。

夕方以降に開店している飲食店を増やすべく、ランチタイムが終わってから（たとえば14時から19時まで）使えるという時間を区切った飲食クーポンが、筆者らの考える「倉敷美観地区「食べ飲み歩きクーポン」」である¹⁶⁾。岡山県外「日帰り者」の「倉敷美観地区「食べ飲み歩きクーポン」」に、倉敷美観地区での宿泊利用できる宿泊割引クーポンも付与し、宿泊によるリピートを促進したい。

岡山県外「宿泊者」には、ホテルのチェックアウト時に、1年間を使用期限として次回利用できる宿泊割引クーポン「倉敷美観地区「まち泊まりクーポン」」を発行し、宿泊によるリピートを促す。宿泊割引クーポンは、リピート回数に応じて割引率を上げ、倉敷美観地区に宿泊リピートするきっかけを作る¹⁷⁾。

「倉敷美観地区「食べ飲み歩きクーポン」」「倉敷美観地区「まち泊まりクーポン」」の導入によって、岡山県外者の倉敷美観地区における、飲食頻度が1食分（1,000円）増えれば、1年間で観光消費額3億5,631万円（推定）が増額する¹⁸⁾。また、日帰り者が宿泊者として、倉敷美観地区に再度訪れる機会の増数や、宿泊リピートによる宿泊回数の増加によって、1年間で観光消費額17億8,155万円（推定）が増額する¹⁹⁾。

6. 結論

なぜコロナ禍（COVID-19 pandemic；2020年～2022年）でも倉敷美観地区に観

16) 先行導入例として、福井県福井市観光協会の「ふくいのにあわせめぐりましょ：幸 FULL TICKET（ゆきふるチケット）」をあげる。同クーポンでは、17時以降で使用出来る「ふらりチケット」（5,000円・クーポン5枚付き）を販売している。同クーポン導入によって、福井市の観光消費額は増額していよう。

17) 先行導入例として、「大館能代空港乗って！泊まって！リピート応援キャンペーン」（秋田県北秋田市・大館能代空港利用促進協議会）をあげる。同キャンペーンでは、秋田県外在住者が、秋田県内の対象宿泊施設に宿泊すれば、宿泊クーポン券のグレードがアップしていく。同クーポン導入によって、宿泊リピートが促進され、秋田県内の観光消費額も増額していよう。

18) 岡山県外観光者19歳から29歳の半数が飲食クーポンを利用すると仮定すれば、2022年倉敷美観地区観光者数232万人×19歳から29歳の岡山県外観光者割合31%（筆者ら実施によるアンケート調査の結果）の半数×飲食費1,000円＝3億5,631万円。

19) 岡山県外観光者19歳から29歳の半数が宿泊クーポンを利用すると仮定すれば、2022年倉敷美観地区観光者数232万人×19歳から29歳の岡山県外観光者割合31%（筆者ら実施によるアンケート調査の結果）の半数×1人あたり宿泊費5,000円（仮）＝17億8,155万円。

光者が訪れるのか。本研究の目的は、コロナ禍（主に2022年）における倉敷美観地区観光者の特性を検証することであった。コロナ禍における観光者の特性がつかめれば、倉敷美観地区観光の将来を考える一助になろう。

倉敷市の場合、COVID-19拡大前（2019年）と比べると、2022年現在、①観光者数336万人は2019年比65%まで回復、②宿泊率は23%まで上昇（2019年18%）、③外国人観光者率は1%まで下降（2019年5%）していた（検証1の結果）。

倉敷美観地区における観光者の年齢層は19歳から29歳が40%を占め、観光者のリピート率は61%であった。観光者の行き先（複数回答・カフェ店59%やランチ店50%）と飲食率82%、1人あたり観光消費額15,313円（2022年岡山県比137%）から、観光者は、倉敷美観地区の飲食店をまわる、食べ歩き（フードツーリズム）を楽しんでいた（検証2の結果）。

倉敷美観地区は、コロナ禍（2022年現在）で、外国人観光者が減り、日本人観光者の宿泊率が上昇していた。そこで、本研究では、倉敷美観地区で最も年齢層が厚い19歳から29歳の日本人観光者に向けて、①観光・飲食アプリ「SASSY」の導入、②くらしき桃子の新メニュー「ミニパフェ」提案、③岡山県外日帰り者用「倉敷美観地区食べ飲み歩きクーポン」の導入、④岡山県外宿泊者用「倉敷美観地区まち泊まりクーポン」の導入を検討した（考察）。

COVID-19拡大の影響を受け、日本政府が外国人観光者の入国と日本人観光者の出国を制限したことやGo To トラベル事業（観光庁）などの成果によって、2022年現在、倉敷美観地区では、COVID-19拡大前（2019年）から日本人観光者の宿泊率が上昇した。COVID-19収束後（2023年以降）、倉敷美観地区でも外国人観光者が増え、日本人宿泊者が減っていく（日本人日帰り者が増えていく）であろう。そうならば、コロナ禍（2022年現在）でも堅調な1人あたり消費額15,313円は減額する可能性もある。

COVID-19収束後（2023年以降）、倉敷美観地区が観光で稼ぐためには、観光者数の回復や増数を目指すのではなくリピーターを増やし、同地区での飲食回数増や宿泊回数増によって1人あたり観光消費額を増額していかなければならないと結論づける。

謝辞

アンケート調査の準備にご助力いただいた、土井春美課長代理（倉敷市文化産業局文化観光部観光課）、山本俊哲事務局次長（公益社団法人倉敷観光コンベンションビューロー）、インタビュー調査にご協力いただいた、牧野浩樹主任（倉敷市文

化産業局文化観光部観光課）、浪越悦子副主任（倉敷市文化産業局文化観光部観光課）、杉岡怜奈主事（倉敷市文化産業局文化観光部観光課）、山本俊哲事務局次長（前掲）、兵頭祐理恵主事（公益社団法人倉敷観光コンベンションビューロー）に感謝申し上げる（いずれも2023年度の職位と所属）。

アンケート調査とインタビュー調査の実施に携わった^{たずさ}笠原早詠（長崎県立大学地域創造学部2023年度4年生）と三宅舞（同2023年度4年生）の労をねぎらいたい（敬称略）。

参考文献

- ・猪池雅憲（2013）「倉敷美観地区観光地域研究：街頭アンケートによる観光動向調査」、太成学院大学『太成学院大学紀要』15、19-28頁。
- ・大分県企画振興部統計調査課（2023）「市町村民経済計算の概念と用語解説」（<https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2200238.pdf>）、2024年1月26日閲覧。
- ・大原謙一郎（2011）「地域文化を紡ぐ人と風土と歴史」、井口貢『観光文化と地元学』古今書院、248-258頁。
- ・大山琢央（2005）「歴史的町並みの観光地形成」、総合観光学会『総合観光研究』4、87-94頁。
- ・岡山県産業労働部観光課（2001；2023）「岡山県観光客動態調査報告書」岡山県庁。
- ・岡山県総合政策局統計分析課（2023）「2020年度岡山県市町村民経済計算」（<https://www.pref.okayama.jp/page/458090.html>）、2023年9月11日閲覧。
- ・岡山県総合政策局統計分析課（2024）「岡山県の人口（2024年1月1日現在）」（https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/898671_8570081_misc.pdf）、2024年2月8日閲覧。
- ・岡山市産業観光局観光部観光振興課（2010；2023）「岡山市観光統計」岡山市役所。
- ・笠原早詠（2024）「コロナ禍における倉敷美観地区の観光に関する研究：なぜ倉敷美観地区は観光地として選ばれ続けるのか」長崎県立大学地域創造学部2023年度卒業論文。
- ・片山明久（2012）「歴史的観光地におけるダイナミズムの協奏：岡山県倉敷市を事例に」、成美大学成美学会『成美大学紀要』2(1)、1-14頁。
- ・倉敷市観光振興アクションプラン策定部会（2004）「倉敷市観光振興アクション

プラン策定部会」倉敷市文化産業局文化観光部観光課。

- ・倉敷市くらしき移住定住推進室（2023）「倉敷市公式移住定住ポータルサイト：くらしきで暮らす」（<https://iju-kurashiki-gurashi.jp/areamap>）、2024年1月29日閲覧。
- ・倉敷市文化産業局文化観光部観光課（2006；2023）「倉敷市観光統計書」倉敷市役所。
- ・くらしき桃子「くらしき桃子の店舗」（<https://kurashikimomoko.jp/shop/>）2024年1月30日閲覧。
- ・公益社団法人岡山県観光連盟「岡山観光WEB」（<https://www.okayama-kanko.jp/spot>）、2024年1月30日閲覧。
- ・国土交通省観光庁観光産業課（2010）「ニュー・ツーリズム旅行商品創出・流通促進ポイント集2009年版」（<https://www.mlit.go.jp/common/000114212.pdf>）、2024年1月30日閲覧。
- ・国土交通省総合政策局観光政策課（2007）「観光立国推進基本計画」（https://www.mlit.go.jp/kisha/kisha07/01/010629_3/01.pdf）、2024年1月30日閲覧。
- ・佐々木一成（2008）『観光振興と魅力あるまちづくり：地域ツーリズムの展望』学芸出版社。
- ・ジェイ・ライン（2023）「オオサカジン：株式会社RelyonTrip（リリオントリップ）社長インタビュー」（<https://shacho.osakazine.net/e749707.html>）、2024年1月30日閲覧。
- ・竹田英司（2024）「倉敷美観地区の観光消費に関する研究」、日本消費経済学会『消費経済研究』13、掲載ページ未定。
- ・内閣府まち・ひと・しごと創生本部事務局（2015）「地域経済分析システム（RESAS）」（<https://resas.go.jp/>）、2024年1月29日閲覧。
- ・捧富雄（2001）「岡山県における高速交通体系の整備と観光施策」、日本観光学会『日本観光学会誌』38、72-79頁。
- ・三重交通株式会社（2023）「倉敷美観地区まち歩きクーポン」（https://okayama.visit-town.com/wp/wp-content/uploads/2023/03/kurashikicp-map_2023.pdf）、2024年1月30日閲覧。
- ・三宅舞（2024）「岡山県倉敷美観地区の観光消費に関する研究：なぜコロナ禍でも倉敷美観地区には多くの観光消費者が訪れるのか」長崎県立大学地域創造学部2023年度卒業論文。
- ・森嶋俊行（2014）「企業創業地における近代化産業遺産の保存と活用：倉敷地域

- と日立地域の比較分析から」、経済地理学会『経済地理学年報』60(2)、67-89頁。
- 安田亘宏（2021）『新版インバウンド実務主任者認定試験公式テキスト』全日本情報学習振興協会。
 - 由布市商工観光課（2023）「由布市観光動態調査」由布市役所。
 - 吉田宗人・出口敦（2016）「倉敷川畔伝統的建造物群保存地区における自主条例による町並み保全・整備に関する研究」、日本建築学会『日本建築学会計画系論文集』81(729)、2443-2451頁。